

分科会報告

D 併設型中高一貫カリキュラム評価と学力分科会報告

今村 敦司

【抄録】 本校で生徒に付けさせたい学力について、決定までの経緯や内容を報告した。そして、教科や特徴ある授業におけるアンケート調査の概要や内容を説明した上で結果とその分析し、課題を協議した。

【キーワード】 8つの力 理解思考表現力 概念理解重視型指導法 併設型中高一貫カリキュラム

1 分科会役割分担

司会 丸山豊

発表者 今村敦司

研究協力者 名古屋大学大学院教育発達科学研究科

藤村 宣之先生

記録者 仲田恵子

2 分科会の進行状況の記録

1 今村の発表

(パワーポイントによる発表・資料プリント3枚)

- ①. はじめに
- ②. 併設型中高一貫カリキュラム評価と学力研究部会の設立経緯と目的
- ③. 併設型中高一貫校としての本校のカリキュラム
安彦先生の1-2-2-1制 構造図を用いて説明
入門基礎期—個性探求期—専門基礎期—個性伸長期
中学の選択プロジェクト、ソーシャルライフ、高校の新教科
修学旅行など行事と総合学習とのリンク
- ④. 学力について
ア 広い視点から学力を捉える必要がある。
イ 学力の考え方は様々であるので同意できる範囲で絞り込む必要がある。
ウ 本校の教育活動で育てることのできるものに限定する必要がある。
抽象性が高く学びの核となる力
理解する力
思考する力
表現する力
具体性が強く認知、技能、情意、価値、態度に関わる力
課題を設定する力
自分を知る力

創意工夫し課題を解決する力

探求する力

人や社会と関わる力

総合人間科、ソーシャルライフ、新教科の授業目標を8つの力と対比させて考える

⑤. アンケート調査と分析結果

ア 研究開発関連授業（総人、ソーシャル、新教科、学びの杜）

一概して平均値が高い。

イ 既存教科の授業

平均値は研究開発関連の授業に対して低くなっている。

⑥. 今後の課題

ア 研究開発関連の授業手法の何をどのように既存教科に取り入れていくかを検証し実践する必要がある。

イ 生徒の実感ではなく「8つの力」そのものがあったかどうかを直接測る手段も考え、実践して、生徒に還元する必要がある。

(2)藤村先生より補足の発表（パワーポイント）

研究開発の理念を生かした教科学習のモデルとその評価
探求的学習、協調的学習などの知見を蓄積している。
総合学習と環流する教科学習モデルの提案

総合学習 → 思考力・表現力 → 思考プロセス → 解法の表現

教科 → 探求力 → 意味理解 → 多様な解法

数学 概念理解 → 人や社会と 社会的相互 解法の比較検討
重視型指導法 関わる力 → 作用 →

背景1 国際比較にみる日本の子供の学力

国際的に見た学力水準の高さと関心の低さ

背景2 学力の心理的部分分析

1 手続き的知識。スキル

2 概念理解重視型指導法「8つの力」の中心の理

解思考表現力

理解・思考・表現をいかに評価するか—授業時非発言者の理解・思考・表現の評価が難しい。

概念理解を測る自由記述型課題例：

◆数学の課題例

「チケットを1人で売ると20分、2人で売ると何分かかるか。」など

◆英語記述型課題の例

「学校の校則についてどう思いますか。 No drinking in class. Show respects to teachers. Do 2 hours of homework every night. Arrive no later than 8 : 45. などについて自分の考えを英語で書く」

◆国語の例

「日本で少しくらいの日照りなら我慢できた」我慢できた理由を自分の言葉で書きなさい。答の例：森林の土が水を蓄えている

自分の言葉を用いて考えを表現することは英語・国語で8割の生徒に可能。2割の中には抜き書き、論理的展開が不十分なものがあつた。

(3)グループディスカッション

丸山の指示で分科会参加者が6～8人ずつグループになって話し合いをして、出された意見や質問を代表の方に発表していただくことになった。

①質問

第1グループ 代表：代表東大附属 成合先生

- 高校から入学する生徒のクラス分けの方法について
- 新教科、総合人間科、ヒューマンプログラム、教科間のぶんどり戦
- 2年間にわたって半年ずつ4つの分野を選ぶ。生徒の成長と選択の関係

第2グループ 代表：山口県立 高森南中学の先生

- 8つの学力に関して、生徒の実態をみて設定されるが、本校のは生徒の実態との関わりは？

回答：担任など、学校の先生たちで実態をとられた。人づきあいが苦手な生徒が多く度合いが分からずいじめが起きる。人付き合いを考えすぎていやになってしまった生徒もいる。そのような実態から「人と関わる力」という学力を考えた。基本は担任が中心になり考えるべき。

- 創意工夫課題を探求、人と関わる力 中・高それぞれでとらえ方が違うのではないか。
- 実践していく姿が想像できない。中・高でギャップがある。
- ある程度絞っていかないと、網羅的にやるのは無理ではないか。
- 出口の高校卒業後の進路と学力が重視される現状、学力に対する考え方は？

- 保護者代表より、親も感謝している。
- 自分を知るものさし、客観的なものさしをどうとらえ子供に提供しているか。
- 学力について中高一貫校では検証の段階。本校は生徒の情意面の評価になっていないか。総合的な検証が必要ではないか。

第3グループ 代表：奈良女子大附属

- 8つの学力について 参考になった 検討していかないといけない。
- 評価の判定と結果を見ると、3.0を下回るところもある。
- 既存教科に適應させるのは教科によって学力が異なるので難しいのではないか。
- 評価のききかた アンケートは設問のちょっとした表現で違いが出る。アンケートの練り直しが必要ではないか。
- 中1の地理とソーシャルライフと比べると、アンケートの表現が異なる。普通に聞かれても評価が高くなるアンケートの聞き方。聞き方に意図を感じる。
- 評価方法に問題あり。同じ課題を2回すれば、2回目の方が正解が多くなるのは当然である。

第4グループ 代表：椋山女学園中学の先生

- 学力は学校によりおさえどころが違う。ポイントを絞った方がよいのではないか。
- 評価を生徒にどのように還元していくのか。
- 総合的につけた力を教科に生かしていく意義
- 学校オリジナルの学力を探していくとき、一般の中高ではどのようにできるのか。

第5グループ

- 新教科をスタートする際、教員はどのようなチームを組んで始めたのか。ティームティーチングはどう決められるのか。
- 既存の教科、古典、地理、選ばれた意図は？
- 受け止める生徒側の動機付けはどのようにしたのか。
- 8つの学力 保護者の意見、指摘はあつたのか？卒業後の出口へどうつないでくか。
- 文章で解答する生徒が8割。残りの3割の指導は？

今村

- 8つすべてを網羅するのは無理。絞り込む必要もある。行事など学校教育をトータルで考えてのばす。
- 中・高先生のものさしの考え方のすりあわせ。全体で取り組んでいる。
- 保護者の意見を取り入れたかについて、P研修会を年1回行って、考え方をくみ取っている。Pの学力に関する研修会で出された意見も取り込んだ。

- 3.0を下回る教科があることについて、ねらった力と授業が一致しているのか考える必要がある。
- アンケートの質問項目に意図はない。質問項目は担当者に直接作ってもらったので雑多なものになり反省している。
- 教科と総合学習のベクトルについて、総合学習は10年目で教科と関連していることは普通にやれている。中3では戦争題材のものを読ませる、大テーマに即して小テーマを設定、自分でアポとり、自分でフィールドワーク、自分で研究集録をまとめる。このサイクルは6年間同じ。そこで教科では国語などで手紙の書き方を教える。

丸山

- 教科と総合、その他の新しい取り組みは、狭い意味での受動的な教科主義。

藤村先生

- 8つの学力、3つの力はどの教科にも共通する。そのあとどこへのびるかは教科により違う。暗記型に陥りやすい教科、手続きを暗記して答えるのではなく、よい学びのプロセスを使えないかということで、教科へのベクトルを考えた。

丸山

- 本校が中・高一貫カリキュラムで、外からきた生徒との融合に難しい側面を持っていることは事実である。外からの40人は、新しい知的好奇心を深め合い学びあうプラスの面がある。ホームルームだけでなく、融合型プログラムとして新教科ができた。
- 人間形成をめざす異年齢授業、その落差の問題はあまりない。

東大附属の先生からの質問

- 8つの学力 教科で理解するためにこの学年ではこれくらいのことができるようにならなければならないという到達目標を決めているのか、或いは今後もこのままいくのか。

今村

- やらねばならないと考えている。東大を見習わなければならない。
- 高1クラスは1/3外、2/3中のクラス編成。融合で効果のあるのは、テーマを1つ決めて話し合いをすると、その討論の中で相手の考え方が分かる。林間学校で親睦を深める。
- 選択プロ 2年で4つの授業
- 同じところで先生を9人(9教科)拘束することも理由のひとつ。
- 新教科のTT決め。分野が決まっている。旗揚げ方式。

教科で出す。希望者立候補、外部講師依頼。

藤村先生

- 生徒の情意面を含めた客観的評価は、ポートフォリオ、授業場面の観察。
- 発言しない生徒を評価するのは無理。
- 自分なりの言葉で書かせてプロセスを測る。授業の探求面を重視。
- 評価が訓練で点が上がったのではないかについて、自由記述型の課題は、いくつかの知識をあわせなければならない。教科と直接関係ないもの。トレーニングでその間に学んだものが直接反映されるものではない。
- 中3のクラスは2つあり、従来型と、概念重視型で授業。テストの点では差はないが、自由記述では差がある。どちらかの型に優位性を持たせているわけではない。
- 自分は一般校では、公立校で6~7校と関わっている。ので、教育心理学の研究者と協同でやるのがよい。
- 教育学部と連携した研究を一般校で実現可能な形で具体的な例を提示すると良い。ここでの成果を発表して一般化していくのが課題。
- 出口一受験について、手続き暗記型の学生はいらない。考え方プロセス重視。入試問題でその点をアピールし、高校での学習に反映してほしいと考えている。受験と逆行することではない。
- 我々が暗黙了解していることを見直し、先生方の意見をいただいて参考にしたい。
- 研究開発の試みをいかに教科に環流できるものなのかを附属の先生と研究していきたい。